

時代の变化に対応し続けるC P h I

化学工業日報社、U B M ジャパンなどが主催する国際医薬品原料・中間体展「C P h I J a p a n 2016」が、あす20日から東京ビッグサイトで始まる。5つの専門展が併催される製薬業界向け総合展として定着し、これまでグローバル化の進展や技術の変遷など時代変化に迅速な対応を図ってきた。さらに今回、製薬業界に特化した

「ヘルスケアI T」も併催され、より最新の業界動向を把握できる場として注目を集めそうだ。

C P h I を中心とする同総合展は、昨年からは医療機器開発のための5展示会とともに「シヤパンライフサイエンスウィーク」として一大イベントを展開している。これに本格的なI T

フェアのニーズに対応したヘルスケアI T が加わる。ここではI T ソリューション、サービスなどを取り扱う企業が、創薬から開発、製造、流通、マーケティングにいたる各分野の関連技術を披露する。

C P h I では、セミナーなども通じてプロセス化学や再生医療、バイオ医薬などに関する最新技術・動向を紹介してきた。製薬業界で働く女性達のネット

ワークづくりを応援する「C P h I W o m e n」も第2回を迎える。ヘルスケアI T を含め、来場者のニーズを満たすライフサイエンス総合展として存在感を増している。同ウィーク期間中に計11の展示会合わせて5万人超の来場を見込んでおり、相乗効果が期待される。

この間、製薬産業を取り巻く環境は変化してきた。その代表例がジェネリック医薬品（後発薬）の台頭だ。2018〜20年

度末までに後発薬のシェアを80%以上に高めるという政府目標に沿って、増産に向けた動きが活発化している。

後発薬の普及は原薬・中間体メーカーに安定供給体制の構築を迫っている。高品質を確保し、この動きは一段と加速するたうえで、いかに対応するか、各社が知恵を絞っている。コスト競争力を武器に日本で市場を開拓を強める海外勢との競合も、過熱の度を増している。日本の原薬・中間体メーカーは、生産性向上のためプロセス改善などに取り組む一方、インドなどで

拠点確保に動いている。後発薬の台頭に対して、新薬メーカーも研究開発を加速する格好で対抗している。創薬イノベーション推進という政府方針の下、画期的新薬の開発に向けて、この動きは一段と加速するだろう。これら先端ニーズへの対応は原薬・中間体メーカーにも高度な要求を突きつける。C P h I に求められる役割は、製薬業界を取り巻く環境変化とともに今後、さらに高まっていくに違いない。

度末までに後発薬のシェアを80%以上に高めるという政府目標に沿って、増産に向けた動きが活発化している。